

団体名・グループ名

久米島ホタルの会 守れホタル・ジュニアーズ

審査委員の評価のポイント

川の生きものの観察や飼育、調査活動、アンケート調査等、クメジマボタル保護のための活動や海や川をきれいにするためのごみ拾い、そして発表会を通して、久米島の自然を大切にすることの意義を積極的に訴えた。離島生態系の保護のために、多様な活動を楽しく展開しており、地域の自然、生態系に着目した活動に説得力がある点が、高く評価された。久米島にしか生息しない、貴重なクメジマボタルの観察をさらに継続・発展していくことが望まれた。

活動の場所

久米島ホタル館

活動したこどもの人数

38人

活動したこどもの学年

小学6年4人、5年6人、
4年4人、3年12人、2年3人、1年3人、幼5人

活動継続年数

2 年

主な受賞歴

なし

活動グループ（学校・団体）の紹介、活動頻度

久米島ホタルンジャーで、活動している子どもたちは、久米島の4つの小学校から参加しています。日本の渚100選に選ばれているイーフビーチや、サンゴの砂浜が広がるハテの浜などが有名な海に近い小学校、ラムサール条約に登録された「久米島の溪流・湿地」の周辺にある小学校、ふるさと自然100選にも選ばれた久米島ホタル館に近い小学校の子どもたちが参加しています。どの小学校も久米島を代表する自然が、多く残されている中にあり、子どもたちは、四季折々に海や森、川などで遊ぶ時間が多くあります。ホタルンジャーに集まった子どもたちは、久米島の美しい自然を大切にして、将来もずっと守り通したいという、強い希望を持った子どもたちです。「みんな仲良し」を合い言葉に、毎月、第2、第4土曜日に集まって活動しています。

活動の概要（活動の経緯も含めてご記入下さい）

ホタルンジャーの結成は、クメジマボタルの保護・保全活動のために平成19年5月に発足しました。クメジマボタルを始めとする川の生きものの観察や飼育、調査活動や、商店街でのアンケート調査等を通して、ホタル保護のための活動や海や川をきれいにするためのごみ拾い、そして発表会を通して、久米島の自然を大切にすることの意義を積極的に訴えました。今年の久米島ホタルンジャーは、新たに、陸生のホタルやラムサール条約登録に貢献した絶滅危惧種のキクザトサワヘビの調査活動も加えて行い、お年寄りから、昔のホタルの様子やホタルがたくさんいる生活の様子などを聞き取り調査もしました。今後は、農家の方や漁民、観光業などにたずさわっている島の多くの人からも聞き取り調査を行う予定です。ホタルンジャー活動は、ホタルの会主催の自然観察会やアサギマダラのマーキング調査、オオヤドカリ観察会、洞くつ探検調査、外来種駆除を目的としたバスター釣り大会、キャンプ、カヌー体験などアウトドア活動等への積極的な参加も必要と考えて組み入れて活動しています。本当に活動は盛りだくさんですが、子どもたちみんながいつも楽しく取り組めるよう継続的に進めています。今年はみんなが大好きな千石正一先生も来られました。

団体名・グループ名

団体名：スミ島ホタルの会 スミ島ホタルンジャー

グループ名：すれホタル・ジュニアーズ

活動の場所（様子や環境など）

僕たちの活動の場所であるホタル館周辺や五木支のマツ周辺の川は、豊かな自然景観が残された森と集落に囲まれた里土です。活動場所の浦土川、砂浜や海岸などは、豊かで美しいスミ島を代表する自然環境です。ラムサル条約の登録や、県立自然公園特別地域にもなっています。

タイトル

スミ島のきれいな水で生きていく生きものを矢張り隊・守り隊

活動を始めたきっかけ（興味を持ったことなど）

僕たちが、スミ島のホタルや自然に興味を持ち、活動をはじめたきっかけは色々です。僕たちは、たまたまホタル館に来て、周辺の川や緑で遊んでいたとき、生きものの採りや釣りをしていた時、子どもどうして声をかけ合い、自然で遊ぶのが好きなら水を守るために活動しない？と語り合っ、呼びかけました。そのため、学校の友達同士で気軽に参加した人がいっぱいいます。また、ホタルンジャーの活動の中で、国の天然記念物のリュウキュウマダモヤ、保護されたモザイトサワヘビを、保護区へ放す活動と一緒に参加して、水が楽しいと感じて、あるいは大切だと気づいたことがきっかけで活動をはじめた人もいます。調査や発表会などのホタルンジャー活動、スミ島ホタルの会のホタル観察会やリバーウォッチングなどに参加して、良いなあと思って参加した人もいます。教育委員会や学校を通して配られたホタルンジャー募集のチラシを見て参加した人もいます。僕たちは、自然をよく知ることでも、自然の大切さを理解できないと思っています。活動を始めたきっかけは、本当に色々ですが、僕たちにとっては、この活動がしても面白く、いろいろなことが学べる場所だと思っています。

活動の内容や調べたこと、写真やイラスト

ホタルンジャー開校式



スミ島ホタルンジャー開校式が4月に開かれました。今年も1年間、僕たちはフメツマボタルとホタルにつながる生きものたちの観察や調査を通して、スミ島の自然の大切さをみんなに伝えることができるよう、活動していきます。

浦土地川では20年ほど前からフメツマボタルが減り、阿里川では10年ほど前からフメツマボタルがいないままです。浦土地川では畑の肥料がたくさん含まれている赤土が大量に堆積していること、加えて阿里川では生活排水もたくさん流れ込んでいる、川の水に含まれている酸素が、ボタルやカワニナがたくさん居る久間土地川より少ないことが原因であると考えています。

この結果から、浦土地川や阿里川では、生活排水や赤土の流出を減らし、畑から出る肥料や農薬を徹底的に減らす工夫や努力をすれば自然が戻る大切な川であることを訴えました。



活動の内容や調べたこと、写真やイラスト

川の清掃と植栽



今年最初のホタルンジャーの活動は、昨年調べた川の中で、一番汚れていた阿里川の清掃とホタルの会の会長宇江原総清さんが大切に育てているサグリバナの挿し木を行いました。

この川は、周辺から生活排水がたくさん流れてくるので、とてもぐさいにおいがします。植栽したサグリバナは、生長すると、根がマットのように広がり、そこにすおバクテリアや微生物が汚れを吸収し、その分解物はサグリバナが栄養にして川の水を浄化すると説明してくれました。もちろん、周囲の草やそこにすおテナグエビや魚も微生物を食餌にしている水生の小さな昆虫などを食べるので、捕食が浄化の働きも行うことも説明してくれました。

僕たちは、この説明の後に、それなら陸生のホタルはどうなっているのだろうと気になり、今年はそれを調べました。



活動の内容や調べたこと、写真やイラスト

陸生ホタルの調査開始



10月4日

天気 ☁️ 🌧️

午前 カタツムリ調査♡

10時半

② おち葉のくだりたそう。

オキカスカマイマイ
2ひき



スミミマイマイ
1ひき



しりマイマイ
しんていのひき
いっているのひき



オモロヤマタカマイマイ
1ひき



アオミオカタニシ
1ひき



オカサマイマイ
いひひる
3ひき



食べられかた

・ホタルに食べられた。

12ひき

・鳥に食べられた。

6ひき

・カニに食べられた。

2ひき

ほのた 木のほ

僕たちがいつもたくさんいる森でさっ
そく調査開始台でもクマツムホタルの多
い浦土地川上流の森は陸生のホタルが
少なく、反文対にクマツムホタルが少ない
下流の森には、陸生のホタルがたくさん見
つかっています。この理由を調べるために、
クマツムホタルの調査の時と同じよう
に食餌となる貝の多さを調べることにしま
した。

調査日: 4月~12月 ホタル調査

8月~12月 カタツムリ調査

調査方法

● 50×50cmの範囲の土を

① 落ち葉の層

② くだけた落ち葉の層

③ 土の層

に分けて掘り取り、持ち帰ります。

● バットに入れて、重さを量り、生きものの木重類と
数を調べます。

調査土場所

● 浦土地川上流の森の土地面と近くの公園の土地面

● 浦土地川下流の森の土地面と近くの火田の土地面



活動の内容や調べたこと、写真やイラスト

夏休みには、いろいろなことに挑戦しました！



ホタルンジャーキャンプで大学生のお兄さん達からも学ぶことができたよ！



バスター釣り大会で大物を釣ったよ！貴重な生きものまで食べてしまう魚(外来魚)だ！！



その魚(ブルーギルとテラピア)はみんなで料理しておいしくいただきました。



サンゴマツ作りにも挑戦したよ！



でも、赤土の影響で、サンゴは少なかった。



底が見えるカヌーで海の中も観察。



夜は、オカヤドカリ観察会を開いた。産卵(幼生を放つ)を見た。



餌が不足して、ゴミのキャップがムササビカキカキの家だった。



ツノメガニというおもしろい顔をしたカニが砂浜を走っていたよ！



海岸のゴミもみんなが拾いました。スミ島にもゴミがたくさん流れついていて、みんな困っているからね！

4月に田植えをしたイモも、みんなで7月に収穫しました。森の観察会や川の生きもの調べ、夜は、ブラックライトを使った昆虫観察会もありました。植物や昆虫の標本も、工夫して作りました。秋はアサギマダラのマッキング会やジャガマ洞く探検島の地質観察会も行いました。楽しかったよ！



活動の内容や調べたこと、写真やイラスト

陸生ホタルの調査結果

※調査地の周辺に生息している陸生のホタルと生息状況

浦土川下流 (A)			
種類	森の周辺	畑の周辺	成虫の出現期
クロイボホタル	多い	少ない	4月～5月
オキナワシホタル	多い	少ない	4月～11月
クマツムミホタル	多い	少ない	3月～4月
クマツムミホタル	少ない	少ない	2月～4月
オキナワシホタル	少ない	少ない	2月～4月
ツバキホタル	少ない	少ない	11月～12月

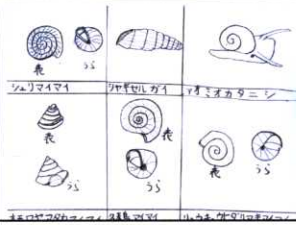
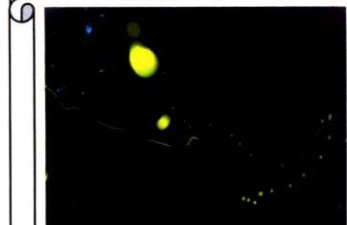
浦土川上流 (B)			
種類	森の周辺	畑の周辺	成虫の出現期
クロイボホタル	少ない	少ない	4月～5月
オキナワシホタル	少ない	少ない	4月～11月
クマツムミホタル	少ない	少ない	3月～4月
クマツムミホタル	少ない	少ない	2月～4月
オキナワシホタル	少ない	少ない	2月～4月
ツバキホタル	多い	少ない	11月～12月

ホタルの幼虫の餌		
種類	エサ	生息地
クマツムミホタル	カタツムリ	森の中のきれいな川
クロイボホタル	カタツムリ	石灰岩地の森
オキナワシホタル	カタツムリ	湿った森、湧き水、川沿い
クマツムミホタル	カタツムリ	湿った森、石灰岩地、川沿い
クマツムミホタル	カタツムリ	湿った森、魚釣り堀、石灰岩地
オキナワシホタル	カタツムリ	湿った森、川沿い
ツバキホタル	フトミミズ	ミミズが多い森、川沿い

浦土川下流の森周辺の土で見つかったカタツムリの数			
種類	森 (A)	畑 (Aa)	合計
オキナワシホタル	1	1	2
クマツムミホタル	2	2	4
ナミキビ	2	2	4
オキナワシホタル	1	4	5
ホソオキナワシホタル	1	1	2
ゲンギョ	2	3	5
ニセノミギセル	6	9	15
オキナワシホタル	2	5	7
ツバキホタル	4	4	8
タネカタツムリ	2	1	3
オキナワシホタル	1	4	5
パンダマイマイ	1	1	2
オキナワシホタル	3	22	25
ハナカタツムリ	1	1	2
クマツムミホタル	3	9	12
ツバキホタル	48	158	206
見つかった種類	10種類	14種類	24種類
見つかった数	67	211	278
総種類数	16種類	24種類	40種類
合計	389	51	440

浦土川上流の森周辺の土で見つかったカタツムリ			
種類	森 (B)	畑 (Bb)	合計
オキナワシホタル	1	2	3
ニセノミギセル	1	2	3
ツバキホタル	1	1	2
ヤマトカタツムリ	1	1	2
オキナワシホタル	1	1	2
オキナワシホタル	2	3	5
ハナカタツムリ	1	1	2
クマツムミホタル	1	1	2
ツバキホタル	1	1	2
見つかった種類	5種類	3種類	8種類
見つかった数	6	1	7
総種類数	5種類	3種類	8種類
合計	7	1	8

調査から、浦土川下流の森のほうが陸生ホタルが多く生息しているという結果になりました。その理由を言ってみると、下流の森は食餌のカタツムリが16種類、389個も見つかり、上流の森では5種類、7個という結果でした。食餌のフトミミズは、上流の森で10匹も見つかりました。このことから、カタツムリの多い浦土川下流では陸生のホタルが多く、ミミズの多い上流側では、ツバキホタルが多いのではないかと思います。また、農業や乾燥の影響の多い、畑や公園ではカタツムリが少ないという結果もでました。土壌を言ってみると、浦土川下流は石灰岩の土壌で、弱アルカリ性の赤土です。上流は安山岩質で、酸性の赤土です。土の小生質は、落ち葉の層には影響が少ないと考えられるので、からを作る材料が豊富にある石灰岩の多い土のほうをカタツムリがより好むと判断しました。



活動の内容や調べたこと、写真やイラスト

調査をして、ごみも 千石先生と一緒にサフヘビを保護区に帰したよ! 拾ったよ!



調査中にホタルンジャーがラムサール条約登録記念講演会に参加して、翌日の自然観察会やキツガトサフヘビ放流会にも参加しました。



ホタル館で保護していた2匹のキツガトサフヘビを町長や教育長と一緒に放流しました。

千石先生と一緒に記念写真を撮りました。一生の思い出です。



ホタル館で保護していたウツチウマガキも保護区に放しに行きました。



保護区には、クマノホタルもいます。黄色のわん章としてサフヘビ調査



ここでも、ゴミをたくさん拾いました。



活動で工夫したこと、困ったこと

調査活動が一番苦労したことは、土や落ち葉のかげらそくりの生きものを、ピンセットでほいくりながら虫メガネで探す作業でした。それでも、いろいろな種類が次々と見つかるようになると、だんだん楽しみになってきて、グループ間で、自然と競うようになりました。名前調べは、もっと大変でした。みんな、どうやって言周へたらしいのが、困りました。それで、同じ大きさや形のものを集め、ホテル館にある標本や写真と比べながら、壳の巻きかたや口やヘソの形を見て言周へました。古くなってしまっているのは、館長に教えてもらいながら分けてました。今年は、ムカサキ園生や低学年の人が多く、上手に字を書けない、長時間一つの事に集中して取組めないため、発見ごっこをしまったり、カタツムリのイラストを描いてもらったりしました。これは、牛寺僧文を見つけたら、名前をおぼえたりするのにより方法になりました。

これからやりたいこと

僕たちホタルンジャーを指導してくれているスミ島ホテルの会は、フメヅマボタルグッズを見せた15年前からホタルを守るための活動をしています。牛寺に、スミ島ホテル館は、自然を大切にしながら豊かに生きる方法を僕たちに教えてくれます。

僕たちは、ホタルンジャー活動を通して、昔の様な、豊かな自然環境を取り戻し、自然と共生しながら、農業や漁業、観光業を生かす取組みがもっとも大切であること、そしてこうした現状を、まだよく知らない大人の人達や知ろうとしない大人の人達に文書して、いっしょけんめいに呼びかけたいと思います。



気づいたこと、感じたことやおもしろかったこと
環境大臣やみんなに伝えたいこと

ふだん使うことのない、虫めがねや小さな顕微鏡を使って、生きた姿のまま
あるいは標本にして、大きくした姿を見ることができるとき、みんな大喜びでした。小さな
巻貝が、もう大人の巻貝だと知っておくこともありました。今まで気づいていなかった右
巻きと左巻きのカタツムリがいることや、左巻きのカタツムリがスズメ島だけの貴重な
種類であることも多かったです。幼稚園生や低学年の人は変な虫が
好きなので、ヤスデのくさい臭いを気にすることもなく、ダシゴムシやイトムシと
同じように顕微鏡でじっくり見てくれたのでとても楽しかったです。

僕たちは、スズメ島で生活しています。しかし、このスズメ島のことも知ら
ないことがまだまだたくさんあります。離れ島の生活は、とても大変だと、言われ
ています。でも、自然が大好きな僕たちは、毎日がとても楽しいのです。自然を守
る事が、りとの暮らしにも役立つと思っています。僕たちスズメ島ホタルンジャーは、この
島の自然を守るために、みんなが興味を持って活動したことが大人になっても、き
っと役に立ち、より良い未来を生きる力になるだろうと考えています。

こどもが変われば未来が変わります。大人が変われば今が変わります。

環境大臣へのお原稿は、もっと自然のつながりを大切にできるような働き方や
自然を守る事が、地球環境だけでなく、りとの暮らしにも役立つ、自然にやさしい暮らし
ちのわかりやすい方法をみんなに見せてほしいです。そして、もっと大人をくhangさせて
ほしいのです。We can do it! の気持ちをもてるような大人へ。

